

# 奥日光スノーシューハイク山行報告

【山行日】2020年2月8(土)～9(日)

【集 合】栃木市運動公園P AM 8:00

【費 用】マイカー1台 : 8,300円

【メンバー】CL:鈴木、 SL大西、  
石澤、齊藤、清水、関、津佐、

【コースタイム】8日: 栃木市運動公園 P8:00  
＝湯元 P9:30/9:50～蓼ノ湖 10:30～小峠  
11:00/11:10～刈込湖 11:45/12:30～小峠 13:10  
～湯元 P13:50/14:10＝おおるり山荘 14:30

8日 晴れ 湯元Pから蓼ノ湖、小峠を経  
由し刈込湖までスノーシューで往復する。



去年、志賀高原スノーシューハイクが荒天の為奥日光に変更になり、「近くて安くて天気は左右されず、毎年日光でも良いよね」との声があり今年も計画した。朝の出発時間もゆっくりで、栃木市運動公園を8時に出発する。東北自動車道から日光宇都宮道を進み、イロハ坂から中禅寺湖畔の道路に雪は全く見られず「雪が無いけどスノーシューは出来るの?」と心配そう。戦場ヶ原も雪は少なく、枯草の茶色が目立っている。湯元の駐車場に着き、トイレの側に車を止め出発の準備をする。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。舗装道路を歩いて湯元の源泉地に向かい、源泉地の奥からスタートする。登山口でスノーシューを付けて登るが、所々雪が無く歩くのに苦労した。金精道路に出ると雪が多くなり歩き易くなる。刈込湖への夏道は山の西面をトラバースして進むが、スノーシューコースは左の急斜面を下り谷間を抜けて蓼ノ湖へ出る。蓼ノ湖畔を西側から北側に回り込み、平らな場所で休憩し衣服調整をする。ここから樹林帯の中を小峠に向かって緩やかに登り、しだいに傾斜がきつくなると登るのに苦労する。急坂の途中で前のグループが立ち止り、スノーシューの履き直しをしている。我々もその下で立ち休みし、前のグループが動くのを待つがしばらく経っても動かない。仕方がないのでトレースを外れて右側から追い越し、急斜面を登って行く。初めてのS水さんはアキレス腱がきついいと言いながら頑張り、急坂を登り切って小峠に到着。休憩を取りリンゴや菓子を食べてエネルギーを補給し、記念写真を撮って刈込湖に向かう。



小峠からも夏道を外れ、沢に沿って下って行く。やがて広々とした雪原を歩くようになり、皆さんトレースを外れて自由に歩きとても楽しそう。



谷間を進むため風の影響を受けず、陽射しがあると汗ばんでくる。狭い沢の中を歩くようになると急なアップダウンがあり、時々ウワーと奇声が聞こえる。振り返ると滑って尻もちをついているが、笑顔でとても楽しそう。谷間を抜けて少し登ると前方が明るく開け、刈込湖畔に飛び出る。

ウワ～綺麗と歓声が上がり、凍った湖面で記念写真を撮り湖畔の一角でランチタイム。コンロで

お湯を沸かし各自持参したカップ麺やスープを作り、もう一つのコンロでお汁粉を温める。白銀の景色を見ながらのランチは格別で、冷えた体がカップ麺やお汁粉で温まり至福のひとつとき。お茶を飲んだら後片付けをして、刈込湖を後にする。往路を戻り小峠で小休止を取り、一気に蓼ノ湖まで下って行く。金精道路に出た所で道路を下る3人と別れ、4人は来た道に戻り湯元の登山口を通過して駐車場に戻る。靴を履き替えて荷物を車に積み、今宵の宿ホテル「おおるり山荘」に向かう。ホテルに着くと丁度3人も到着し、車から荷物をおろしチェックインする。部屋に着いたら荷物を整理し、落ち着いたら温泉に浸かる。今年は温泉の湯加減が丁度よく、汗を流してからゆっくりと体を温める。4時から男性の部屋で宴会が始まり、S 藤さんの赤ワイン2リットルと白ワインのボトルが並び乾杯する。ビールを飲んだ人もワインに切り替え、今日のスノーシューの話や今年登った山の思い出話に花がさいた。五時前に夕食の案内があり、一旦お開きにして1階のレストランへ向かう。ビュッフェ形式の夕食で、各自好きなものをトレーにとりわけテーブルにつく。ドリンクも最初の1杯はサービスで、好きなものを選べる。乾杯して飲み始めるが、若い人達は元気良くお酒が進むが我輩はお腹がいっぱいで中々進まない。1時間半で夕食は終了し、部屋に戻って飲み直す。残ったワインを片付けたらビールを買い、飲みながら会話が弾みビールが進む。ビールが無くなると買ってきて、楽しく時間が過ぎて行き明日もあるので9時にお開きにする。テーブルを片したら布団にもぐり、そのまま眠りについた。



18日:おおるり山荘 8:30＝赤沼 P8:40/9:10～小田代ヶ原 P10:00/10:00～弓張峠 10:30～庵滝 11:30/11:50～弓張峠 12:30～小田代ヶ原 P12:40/13:10～赤沼 P13:50/14:00＝栃木市運動公園 P15:20

9日 晴れ時々曇り 赤沼P から小田代ヶ原・弓張峠を経由し庵滝までスノートレッキング

朝起きて窓の外を見ると、晴れていたが風が強く吹いていた。テレビで天気予報を見ると、晴れるが気温が低く風が強い予報になっている。準備を整え7時から1階のレストランで朝食バイキングをいただく。今日は昼食が1時を過ぎる予定なので、皆さんトレーに好きなものが沢山盛られて

いる。元気にモリモリ食べて、デザートやコーヒーをいただき出発する。

赤沼茶屋駐車場に着くと、すでに車がいっぱい路駐の車もあったが、端に1台分のスペースを



を見つけ止められた。風が強い中で出発の準備を整え、トイレとストレッチを済ませ女性達はアイゼンを付け出発する。小川に沿って歩いて行くが、雪はしっかりと踏み固められツボ足でも問題なく歩ける。ミズナラの樹林帯を歩き、風もそれほど感じなく快適に歩ける。赤沼分岐で戦場ヶ原への道を右に分け、少し先で湯川を渡り小田代歩道を進む。緩やかなアップダウンを繰り返す歩道は気持ちよく、皆さんも楽しそうに歩いて行く。途中、右側に少し入り

り戦場ヶ原展望台に寄り、戦場ヶ原の雪原と日光連山の景色を眺める。

ここから少し先で小田代ヶ原のゲートをくぐり、小田代ヶ原を南から西へ回り込むように進みバス停の東屋で休憩する。ここで男性達もアイゼンを付け、水分を補給したら弓張り峠を目指す。道路

を緩やかに登って行き、下った先のカーブが庵滝への入口で右にトレースが付けられている。カラマツの植林帯の中を進み、少し先から外山沢に沿って登る道になる。超人気のコースでトレースはしっかりつけられ、天気良ければビギナーでも迷うことはない。沢筋の歩きなので風もほとんど無く、岩の上に積もったマシュマロのような雪が目を楽しませてくれる。雪の間をくねくねと曲がりながら高度を上げ、目の前に山が迫ってくると賑やかな声が聞こえてくる。最後の坂道を頑張ると青く輝く氷瀑が現れ、大勢の登山者が氷瀑を見上げていた。左側の氷瀑でアイスクライミングを楽しむグループが居て、クライマーとビレー



ヤーの掛け声が響き渡っている。我々も場所を確保してザックをおろし、沢を渡って氷瀑の下に入る。青白く輝く大きなツララに思わず「綺麗～～」と歓声が上がった。氷瀑の裏側に入り記念写真を撮り、皆さん夢中で氷瀑をカメラに収めていた。氷の殿堂を楽しんだらザックを降ろした場所まで戻り、どら焼きやくだものを食べて空いたお腹を落ち着かせる。お腹が落ち着いたら下山開始し、往路を戻って小田代ヶ原へ向かう。



帰りは下りになるので皆さん余裕で歩き、会話が弾んで楽しそう。お昼を過ぎているが、登って来る人はまだまだ多くすれ違いで待たされる。

帰りは下りになるので皆さん余裕で歩き、会話が弾んで楽しそう。お昼を過ぎているが、登って来る人はまだまだ多くすれ違いで待たされる。

1時間足らずで小田代バス停まで戻り、東屋でお湯を沸かしてランチタイム。  
それぞれ持って来たカップ麺やスープでお腹が満たされ、お茶を飲んだら赤沼茶屋に向かう。  
帰りは足取りも軽く超特急で進み、予定よりも早く赤沼茶屋に到着した。トイレ脇の東屋でアイゼンを外し、靴を履き替えたら車に乗って帰路につく。いろは坂から日光宇都宮道、東北自動車道を走り、途中大谷 PA で買い物し無事栃木市運動公園に帰着した。二日間晴天に恵まれてスノーシューとスノーハイクを楽しめ、初めての方達は大満足のスノーシューデビューとなった。

